

平成30年度学校自己評価システムシート (県立久喜特別支援学校)

目指す学校像	児童生徒の社会的自立の力を育む学校
--------	-------------------

重点目標	1 教育支援プランに基づき児童生徒が達成感を得られる授業づくりを進める。 2 共生社会の実現に向け、教職員の専門性を生かした組織的な地域支援や交流及び共同学習を進める。 3 児童生徒が安全で安心な学校生活を送れる環境づくりを進める。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)		実 施 日 平 成 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	新学習指導要領の理解をさらに深め、教育課程を編成する必要がある。また、教育支援プランに基づく指導支援が進みつつあるが、より一層の充実を図るため、教職員の専門性の向上を図り、児童生徒の障害特性に配慮した指導を進める必要がある。	児童生徒が達成感を持てる授業づくりを行う。	【達成感を持てる授業づくり】 ①教育支援プラン作成について、説明会を年度当初に実施する。 ②外部講師を招いての全体研修会を実施する。 ③視覚的支援やICT等を活用する。 ④新学習指導要領理解のための説明会を実施する。	【達成感を持てる授業づくり】 ①児童生徒に合わせた教育支援プランを作成マニュアルに沿って作成し、適切に評価できたか。 ②研修会を効果的に実施できたか。 ③児童生徒に合わせた支援を行えたか。 ④新学習指導要領の説明会を複数回実施できたか。				
2	支援籍学習は支援籍校との連携により効果的に実施されている。また、学校間交流も活動内容を工夫し実施されている。地域支援においては、特別支援教育コーディネーターが他機関からの要請に応じる個で担うセンター的機能となっており、組織として担う必要がある。ボランティア養成については、引き続き積極的に進めるため、情報発信が必要になっている。	組織的に地域支援ができる体制づくりを行う。	【組織的地域支援体制づくり】 ①企画委員会が中心となり、各分掌委員会が担える地域支援内容を整理する。【8月】 ②①を基に、各分掌・委員会が担える内容とコーディネーターの役割を明確にした地域支援体制図を作成する。【11月】 ③組織的支援体制について教職員の理解を得る。【1月】	【組織的地域支援体制づくり】 ①各分掌委員会から支援内容を集約整理できたか。 ②地域支援体制図を作成し、企画委員会で検討ができたか。 ③職員会議での提案と周知を行えたか。				
3	火災や地震を想定した避難訓練を実施し、避難が円滑にできる状況であり、引き渡し訓練は、保護者の協力を得て今年度実施予定である。また、児童生徒は、思いもよらぬ怪我をしてしまうことがあり、ヒヤリハットを収集し、教職員で共有し未然防止を図る必要がある。併せて、安全に遊具を使用するためその配置や新規購入について検討を進める必要がある。	災害時対応への備えを進めるとともに、日々の児童生徒の怪我や事故を防止する。	【災害時対応】 ①引き渡し訓練を9月に実施する。 ②防災委員会は、実施後の反省を基に課題を整理し、対応策を講じる。 【ヒヤリハットの収集と共有】 ①保健部、指導部が中心となりヒヤリハットを収集し、共有する手順をつくる。 【遊具の安全利用に向けて】 ①企画委員会が中心となり、遊具の配置や新規購入に向けて、各学部の意見を集約し、構想を策定する。	【災害時対応】 ①引き渡し訓練を円滑に実施できたか。 ②成果と課題を明らかにし、課題への対応策を講じ周知できたか。 【ヒヤリハットの収集と共有】 ①ヒヤリハットを収集共有できたか。 【遊具の安全利用に向けて】 ①遊具設置等の将来構想を策定することができたか。				